

品川宿 会報 みこしだこ 2016年 新春版

◆KAIDO books&coffee

佐藤 亮太



品川区の空き店舗活性化事業の助成を受けて、「旅」をコンセプトにしたカフェ「KAIDO books & coffee」が2015年8月にオープン致しました。当店は、古本屋「街道文庫」の中田氏にご協力頂き、書籍、約10000冊を揃えたブックカフェです。

オープンにあたっては、若手建築家の小室氏、下司氏(小室下司建築設計事務所)はじめ、役所や企業、出版社など、多くの方のご協力を賜りました。

今後多くの方と連携し、「旅」と言えば品川のKAIDO」と思っていただけるよう、日々精進して参ります。これまで以上に皆様に愛されるお店となるよう努力致しますので、何卒ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願致します。

◆ELCA東京 活動報告

ELCA東京 運営委員会



ELCA東京は、地域に根ざして英語による国際交流を推進しているNPOです。

子どもたちと外国人が日常的にふれあえる場所として、「英語学童」を実施しています。

品川宿交流館をお借りして、「子どもまちづくり国際会議」「英会話しゃべりんピック」など地域の方々との国際交流イベントもほぼ毎月開催しています。現在は外国人留学生主体で講座・イベントの企画をしており、地域のボランティアがその活動を支えています。

現在、品川宿交流館で実施している国際交流イベントと一緒に参加してくれる「ボランティア・コーディネーター」を募集しています。まちづくり協議会の皆さまにも是非ご協力をお願いいたします。

品川の地域に詳しく一緒にまち歩きに行ってくれる方、子ども向けの活動でグループリーダーになってくれる方がいらっやいましたら、お気軽にお問い合わせください。

◆品川礎会

大越 章光



平成12年、北品川の祭り関係のメンバーが中心となり、親と買い物や緑日などでとても賑わっていた頃よう

な商店街に復活させようとの志で結成された団体です。品川宿周辺だけにこだわらず、東五反田に近い東洋製缶跡地にて「元気フェスタしながわ」と題した、五反田方面も巻き込んだ大きなイベントや、日産スポーツプラザにて開催した女子プロレス大会が最初の活動でした。

その後、当時の旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会で懸案であった名所・旧跡看板設置について、品川礎会が説明文を品川区教育委員会に依頼し、地元の本に長けた方に書いていただき、また子ども木工教室を開催した際、地元の大工さんに看板作りをお願いし、これまでに20数ヶ所にわたり設置してきました。

平成13年からは、昔あった虚空蔵尊大祭の縁日を復活させ、商店街の賑わいを取り戻す目的で大祭に合わせて元気フェスタしながわを開催し、現在に至っております。

今後は設立当初の原点に立ち返り、1. 品川宿の寺社に花を植え、季節ごとの名所づくりに協力していく
2. まちの各所に設置していた名所・旧跡説明看板がかなり傷みや劣化が進んでいるため、修復、作り直しなど地道な活動も行っていく予定です。今後も旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会と補い合いつつ、品川周辺の活性化の力になればと思っております。

◆東京サラヤ区内地域活動

小野 文義



現在、旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会を通じ、地域とのコミュニケーションを継続すべくCSR活動を進めています。当初は何から始めればいいのか分からず、出来るだけ多くのまちのイベントに継続参加していくことからスタートでした。現在では会場小や城南第二小などで「手洗いの重要性」やサラヤのウガンダ活動の紹介をする「出前授業」を行ったり、国道15号線徒歩帰宅者支援対策協議会と「緊急時一時待機施設運営訓練」をしたり、品川フラワーレンジャー(しながわみどり)と花のボランティア活動)に参加したりと地域の方々と一緒に精力的に活動をしています。

これからも、まちの人たちと一緒に活動を楽しむことを継続していきたいと思えます。

◆東海道五十三次ウルトラマラニック

阪本 和則



私たち、東海道五十三次ウルトラマラニック実行委員会、サハラマラソンを共に走った仲間と結成しました。限

界を超えた先で感じたこと、一週間寝食を共にした仲間との絆。

とても辛く楽しかったステージレースを、もっと身近に、もっと多くの方に体験してもらいたい!

東海道五十三次ウルトラマラニックは、そんな思いで企画した大会です。

5月より7ヶ月に渡り開催した2015年度大会は、大盛況のうちに無事全行程を終えることができました。本年度大会には延べ250名の選手が参加されました。

地域との交流はさらに深まり、多くの自治体及び関係各所よりご後援を頂いております。

「東京オリンピックに来る世界中の人々が、東海道を旅する」そんな夢の実現に向け、一歩一歩参りますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◆品川キッズハロウィンパレード

パリスマドンナ



地元保育園の保護者の方から、商店街で子供のためのハロウィンのお祭りをやりたい!という声をもらい企画しました。予算ゼロのスタートでしたが、商店街の各店に話を持っていくとすく協力的で、それぞれお菓子を用意してくれました。イベント用の飾りも友人や保護者、お店のお客様などから寄付金をいただき準備ができました。参加者数も一週間で締め切らなくてはならないくらい大反響で、約子供140人、保護者80人、スタッフ35人と思っていた以上の人数になり大成功でした。イベント終了後、商店街や保護者様から来年も是非やってほしいという、嬉しい声をいただき、来年は品川宿の大きなイベントの一つになれば嬉しいと考えていますので、応援よろしくお願いたします! <https://www.facebook.com/shinagawahalloween/>

◆ママかつ@しながわ

杉山 由美恵



在宅子育て中のママが、イキイキ活動し、活躍する「きっかけ」「チャンス」を提供したいと思い、今年1月より品川で子育て真っ最中のママ達で立ち上げました。ママかつの活動を続けていく中で【出会い・つながり・情報交換の場】を提供していきたいと思っています。

- 1. レッスン・講座の開催「子育てがもっと楽しくなるイベント、講座を通して共感できる仲間と出会う場」
- 2. 交流会「同じテーマを持ったママ同士をつなぐの場」
- 3. ママの活動を応援「個人で活動しているママや、講師活動しているママ同

士のつながりの場」

4. 地域イベントに参加「町会・商店街・商業施設と連携しあいながら、地域と品川に住む親子をつなぐ場」
主な活動場所は、アトレ大井、住まいの情報館、カルチャーセンター、品川区児童センターにて開催。年間85回の開催実績!品川子育てメッセ、元気フェスタ品川、品川神社大祭り、アトレ大井町Halloween、Xmasイベントにてワークショップ開催し、地域密着型の活動をしています。

◆うなぎのねどこ

田邊 寛子



「うなぎのねどこ」と申します。スーパーホテル隣の2階建木造、間口1間半(2.7m)、奥行約30mの長〜い「うなぎのねどこ」な建物を手づくりでリノベーション、今年7月末にイベントのできるコワーキングスペースとしてオープンしました。(月額会員制)トタンに覆われているのですが、軒裏をよ〜く見てください。出桁造り(だしけつづくり)です。

梁(腕木)を側柱より外に突出して、出桁を乗せ、その上に垂木(たるき)をかけて屋根を支える構造、江戸時代以降の一般的な町家(店舗兼住宅)の造りですが、かつては日本髪に欠かせない「かもじ屋」でした。その名残は壁の中のガラス看板と木天井。

現在、会員主催のイベントを多く開催しています。旧東海道の生き証人的な建物を体験しにどうぞ遊びにいらして下さいね。

◆御殿山トラストシティ/東京マリオットホテル

森トラスト(株) 佐藤 未希



東京マリオットホテルの開業とともに名称変更した御殿山トラストシティも2015年12月おかげさまで2周年を迎えました。春には、品川宿の皆様のご協力を得て花魁道中や人力車、屋台等を実施した「御殿山さくらまつり」を開催。夏にはハワイをテーマにした夏まつり「Aloha Night」、秋には、今年も東京マリオットホテルがしながわ宿場まつりのホテル村に出席。冬は、江戸時代、月見の名所でもあった御殿山にちなみ「Gotenyama Moonlight Illumination」を実施しています。また、御殿山トラストシティのホームページ(<http://www.trustcity-g.com>)を刷新。御殿山の情報に加えて、品川周辺情報を発信していきたいと思っておりますので、ぜひご覧ください。



さて皆様もお気付きのように、このところまちの中でマンション建設が目立ちます。羽田や新幹線品川駅への連絡がよく、まちの利便性が高いことも一因ですが、もう一つやはり、石畳や街路灯などの整備でまちが一定のトーンで統一され、きれいになって、まちの付加価値が上がったことも一因だと思います。マンションはこのまちに新しい人



昭和63年に設立した「旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会」(以下、まち協)では、平成7年「東海道品川宿まちづくり計画書」策定で掲げた《次代を担う子どもたちに、いつまでも祭りが続けられるまちを伝えていく》という目標に向け、毎年、各事業やプロジェクトが活動を行っています。

◆視察対応

和田富士子



まち協が商店街、町会、自治会といった民意の任意団体であり、また宿場、街道のつながり、そして景観まちづくりや地域密着ゲストハウスの事例など取り組みの多様性から、一年を通じ日本全国の自治体からの視察依頼が多く、堀江会長による「まちづくり協議会」の沿革、まちづくりコーディネーターの佐山さんによる品川宿まち歩きツアー&講義などを中心に、品川宿にいらしていた方々との交流を深めています。今年に入ってからは、2020年東

新年あけましておめでとうございます。本年も変わらぬご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会 会長 堀江 新三

たちを取り込む一方で、風雪や日陰、商店街の形態が崩れ専門店が減ってしまうという、マイナスももたらしています。また現在、京浜急行線の立体化や品川駅南口周辺の再開発などの協議が始まっています。かつてパブル期には、品川宿は再開発の被害がほとんどなくやり過ごすことができましたが、今回はかなりの至近距離で波をかぶることになりそうです。

もしも今このまちに大規模な再開発の波が押し寄せたら「東海道の歴史性を活かしたまちづくり」、「次代の子どもたちにいつまでも祭りが続け

られるまちを伝えていく」という、この28年間続けてきたまちづくりが、根底から覆われてしまいます。今私たちはそんな危機感を抱いています。

皆様もご記憶のことと思いますが、東海道400年祭を祝して八ツ山から鈴ヶ森まで、各町会の神輿が連合渡御をしてから、早いものでもう15年が経過しました。品川宿の背骨にあたる東海道が415年来、変わらぬ道幅、線形であることにより、このまちの生活文化、暮らしぶりもまた、他のどのまちとも違う品川宿らしい独特のスタイルを維持してきたのでは

ないでしょうか。再開発は部分的には活性化につながるかもしれませんが、そのために失ってしまうもの大きさは計り知れません。

思えば当協議会の活動の初期に、若手メンバーから「このまちをどこにでもある普通のまちにしたくない。品川宿は今のまがいい。祭りが続けられないようなまちにしたくない」という発言があり、まちづくりの大方針が決まりました。新年を迎え私たちはまた、この初心に帰るべきかもしれません。東海道はこの品川宿のかけがえのない宝物なのです。

組織運営について

それら活動を広く知ってもらい、参加してもらう目的で今年度より「まちの広報部」を立ち上げ、この度の「みこしだこ」では、改めて各事業やプロジェクトについてご紹介しております。最後までお付き合いいただけますと幸いです。

では、はじめに各事業やプロジェクトを支える「まち協」の組織運営についてご紹介します。

《運営委員会》毎月最終火曜日(原則)の21時〜品川宿交流館にて運営委員メンバーを中心に、地域の活動報告がされ、まちづくりに興味のある

人たち、企画の提案をしたい人などが集まり会議を行っています。「誰でもウエルカム!どんな提案もオーケー!すべてオープン!」「自分たちのまちは自分たちでつくるう!」をモットーに、毎回30名以上の方々が集い盛り上がりを見せています。設立以来28年間、「品川宿のまちづくり」を共通テーマに地元の商店、企業、住民、外のまちからやってくる人たちの間で多様な話題が飛び交い、交流が生まれる様子は、江戸時代から変わらない品川宿の姿なのだろうと感じています!《総会》年に一度(5月下旬)、議決権

◆品川宿交流館

和田富士子

新年とともに7年目を迎える品川宿交流館は、まち協が品川区より観光案内所として運営委託を受けています。散策、観光などで訪れる方々の無料お休み処として、品川宿周辺で地域活動やまちづくりに取り組んでいる人々が交流、情報交換ができる場として、未来を担う地元の子供たちや、まちと関わりを持とうとする人たちが品川宿の歴史や文化に触れ、楽しみや理解を深める場としての役割を目指しています。最近引越したことで、テレビ・雑誌などのメディア取材も増えた一年でした。「空き家対策」「コミュニティづくり」「若手の創出」といった世の中のキーワードトレンドと並走した質問なども多く、それぞれの地域が抱えている課題について対話を交わす機会が多かったように感じます。宿場らしく人やモノ、コトとの交流から生まれる多様な学びとご縁を、今後も一層作っていきたく思います。

交流館の顔とも言うべき駄菓子屋「またあした」のおばちゃんを通して成長した子供たちも多く、買い物にきた子供たちとおばちゃんとの対話に下町らしい風情を感じます。

また、月一ペースで土曜の朝「朝ごはん会」、平日17時以降に「晩ごはん会」「映画鑑賞会」「勉強会」など、品川宿周辺に暮らす、働く、関わりを持ちたい人たちとの交流を深める目的

のある会員(個人、町会、賛助会員、商店街)、会友(協力団体)、行政のみなさまが集まり、1年間の活動報告、決算報告、事業計画の承認を行っています。平成21年に「品川宿交流館」設立、事務局体制が確立され、事業規模も大きくなり活動の幅がひろがっています。

《新年賀詞交歓会》品川宿のまちづくりに関わるすべての方々と一緒に会し、1月下旬に東京マリオットホテルにて、開催されています。年々参加者が増え、約150名の方々にご参加いただいています。

でイベントを開催しています。近くに商店街や大学、企業さんもある地域ゆえ、このまちには沢山の知識や経験を持つ先生たちがいます。来年こそ「品川宿まちの学校」企画を立ち上げ、大人も子供も遊び、学び倒せるような場づくりをしていきたいものです。最後に、今年は品川歴史館開館30周年企画として「東海道品川宿展」があり、品川宿に関する多くの学びがありました。交流館2階の展示スペースにおいても、充実した内容にしたいと強く願っておりますので、どうかお力添えのほどよろしくお願い致します!



◆まちの広報活動

改めて今回の「みこしだこ」を作成しながら、このまちには本当に事業、プロジェクト、活動、イベントが多いことに驚きます。同時にその多様性を有する一つ一つの動きはさらなる広がりや、仲間づくりを求めています。

ここ品川周辺(第1、2地域センター内)は嬉しいことに年々子供の数も増え、約67,000人の住人がいらっしゃいますが、「周辺住民の方々はどんなことに興味があるんだろう?」「品川宿についての情報はどれほど届いているのだろうか?」「地域内の活動をもっと知って欲しい、参加して欲しい」そんな思いから、「まちの広報部」立ち上げとなりました。

Facebook「かわら版」、2016年2月改訂・新設するホームページ

といったオンラインの動きと、2015年2月より30町会・自治会にある351ヶ所の掲示板と町内の回覧板(1,244枚)に配布をしている刊行物「品川宿かわら版」、そして直接人と交流をつくる品川宿交流館というオフラインでの活動を中心に広報活動を行っています。

広報していくためのツールづくりをしていく傍ら、誰のためのどんなコンテンツが必要かを考え企画したり、一緒に広報活動をしていく人、チームが必要です。地域メディアに興味ある方、場づくり・イベント企画が好きな方、一緒に汗かいてくれる方がいましたら、是非とも「まちの広報部」の仲間入りをお願いします!お待ちしております。

交流事業について

このまちがこのまちであり続けるために、井の中の蛙にならないよう他所のまちを見に行くこと、外の人に見てもらふこと。私達は結成以来、他の地域との交流を大切に

品川区シティプロモーション事業

「伝統が息づく暮らしと都心の魅力が共存する品川区の素顔を、もっと多くの人に知ってもらふ」、そして「住んでみたい・訪れてみたい品川区」を感じてもらふシティプロモーション事業が発起し、それに伴った認定事業募集にまち協で申請した「東海道品川宿 情報発信プロジェクト」が認定先として決定しました。

この認定を受け、先の「まちの広報部」で紹介した通り、品川区の中でも歴史、文化ともに世界に誇るコンテンツを擁する品川宿、旧東海道をまつわる情報、まちづくり、地域活動、商店街といった地元の暮らしに

根ざした情報、そして天王洲などの周辺地域などの情報を集約し、外国人旅行者向けに一部コンテンツの英語化を加え、2016年2月末頃を目処に品川宿のポータルサイトをオープンします。紙ベースで残る資料も多く存在するため、ゆくゆくは資料のアーカイブ化も進めていきたいと思ひます。皆さまからの情報提供、ご協力などお待ちしております!



昭和5年に返還された品川寺梵鐘「洋行帰りの鐘」

◆しながわ宿場まつり

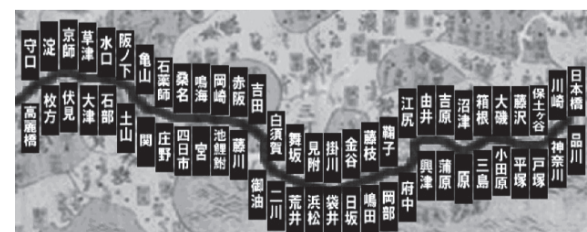


「あ、風鈴売だ!!」という普段聞き慣れない言葉につられて、声が聞こえた方向を見ると、風鈴を沢山担いで、和服を着こなししている男性がいました。普段なら少し珍しい和服もこの日はとても品川宿に馴染んでいます。

今年、外国人観光客に品川の魅力を感じてもらふ実証実験で、初めて参加しました。「来場者10万人の祭り」。人混みを心配していましたが、販

わいながらも歩けないほどではなく、大規模ながらもまちの温かみを感じのお祭りでした。青物横丁と北品川を何往復もしましたが不思議と苦にならず、子供の頃味わったようなワクワクした気持ちになりました。特にきらびやかな花魁道中が印象的でした。日が暮れて、提灯が鮮やかに夜空に輝き、観衆の盛り上がりもピークに達した頃、目の前を艶やかに通り過ぎていく花魁。彼女達

◆特定非営利活動法人 歴史の道東海道宿駅会議



東海道は日本の歴史的発展に大きな役割を果たし、道が繁栄をもたらし地域づくりの根幹をなしてきた。

しかし私達を取り巻く環境や経済の変化は様々な社会問題を生み、地域の風土や文化を衰退させているとの危機感から、1988年滋賀県土山宿の

松山正己前町長が呼び掛け、かつて繁栄した東海道の宿場について、まずは勉強することから始めよう」と東

います。そもそもまちづくりを意識したのは東海道のご縁があったからこそ。今後も東海道の各宿場町をはじめ、品川寺の鐘のご縁で結ばれたジュネーブ市、鹿児島熱闘会議と南

さつまの方々、飯田市、郡山や草加の商店その他の地域や人々とのお付き合いを末永く続けたい。

(株) 電通国際情報サービス 榎本 晶子

に見とれ、憧憬の念を抱いた私と、400年前に花魁を見た町人はきっと同じ気持ちだったことでしょう。遠

matchlink Discover Shinagawa -After SAMURAI-

(株) 電通国際情報サービス 野崎 久

品川の名所を観光し、品川の魅力をディープに体験できるプロモーションを9/12~27にわたって旧東海道を中心にこの北品川にて開催させていただきました。本活動は、訪日外国人を含む観光者をターゲットとした、シェアサイクルとスマホアプリを利用したISIDイノラボのインバウンド向け施策の実証実験になります。観光客に品川の名所を訪れて、日本の転換期に要衝だったこのエリアの歴史や文化を感じる体験を、まちの人との交流を通じて提供するものでした。サムライ文化から近代町人文化への転換期である1600年を契機として、商人のまちとして栄えた品川エリア。本活動をき



海道シンポジウム連絡会議」を立ち上げた。これに賛同し、翌年第2回目のシンポジウム大会を品川宿で開催。その後活動組織の基盤づくりが必要と考え、2003年に法人化し現在に至っている。

2005年には京都大阪間の伏見・淀・枚方・守口の4宿が加わり東海道五十七次となった。

和田富士子

長谷山 純

◆第28回東海道シンポジウム見附宿大会

乗松 隆



実行委員長や世話役の方々はじめ、参加された方々のご挨拶、地元独自の太鼓演奏やいるんな寸劇などの催しが披露され、会場はとても楽しいものになりました。多くの方々の、このシンポジウムにける想いや、東海道五十七次に寄せる期待を感じた会でした。また、一方ではなかなか活性化しない地域の難しさもお聞きしました。

参加して感じたのは、各宿場に関わっておられる方々の地元宿場と東海道五十七次全体に寄せる想いです。そして、各宿場には、宿場ができる以前から、それぞれ貴重な歴史と文化を持っていることを改めて知ることができました。

私は、品川に来て一年不足ですが、まち協とご縁でこのような歴史あるシンポジウムに参加させて頂

いたことをとても感謝しております。これからは、外国の方々の観光客も増える中、地方の創生と同時に、ますます日本の伝統や歴史が見直されるとともに、観光都市として、東海道五十七次が脚光をあびていくことと思ひます。その中で、各宿場のまちづくりやネットワークが大事になってくると思ひます。

◆街道松をつなぐ

長谷山 純



当品川宿には、江戸の昔から変わらぬ道幅の旧東海道が、八ツ山の入り口から鈴ヶ森口まで約3.8kmにわたって残っており、今や貴重な歴史

遺産となっている。

公園などの公共空地やマンションの公開空地など、東海道沿いに空き地が生じた場合に、そこに五十七次の各宿場からご寄贈いただく街道松を植樹し、松をつなげていこうとする計画。

1993年以来私達の無理なお願ひに、浜松・三島・土山・保土ヶ谷・袋井・大磯・御油・枚方・坂下・関・亀山・藤沢の12宿の皆さまがご尽力下さり、貴重な松を頂戴することができた。今後も各宿に呼び掛けを続ける。

◆第22回大磯宿場まつり

東海道8番目の宿場・大磯宿は、平塚宿を出て花水橋と高麗山の絶景を迎えられて始まります。大磯宿には、3つの本陣跡、虎御石の残る延台寺、京都の落柿舎・義仲寺の無名庵とともに日本3大俳句道場に数えられる鳴立庵、島崎藤村邸、伊藤博文別邸の滄浪閣など、品川との関わりのある史跡や見所も多くあります。

今回の宿場祭りでは、品川宿のブースにて恒例の海苔販売を行いました。毎年待ちわびている常連さん、午前中から売れ行きは良好だったようで、例年並みの売り上げになりました。

祭りはマジックショーや音楽ショーの行われた中央ステージ、落語寄席のステージ、路上パフォーマンス、地

元のゆるキャラ「いそべえ」、あおみちゃんやちよっぴアな花魁道中の練り歩きもありました。出店は、地元名産や海産物、フリーマーケット、お祭り恒例の各種食べ物屋台が並び老若男女、親子連れなどの流れが閉場の午後3時まで続いていました。品川宿、神奈川宿、由比宿、草津宿など東海道の宿場からの出店もありました。

街道文庫 田中義己



◆KAIDO books & coffee×地域交流

2015年8月にオープンして以来、多くの地域と交流をして参りました。長野県飯田市、岡山県倉敷市、滋賀県長浜市、富山県富山市…。当店の1Fスペースを利用し、それぞれの地

域の魅力をPRする目的の企画展示を行っています。長野県飯田市については、9月に飯田市との交流ツアーを実施し、飯田市の農家や高校生達が品川に来て、野菜の販売や、

水引のワークショップなどを実施致しました。長浜市については、市長もお店に遊びに来られ、今後の交流について意見交換を致しました。

今後は東海道の宿場町がある地

域を中心に、これまで「まちづくり協議会」が築いてきた、交流の輪をより拡大し、太い物にしていきたいと存じます。

しながわ街づくり計画 佐藤 亮太



まちなみ整備プロジェクト



まちづくり計画書(平成7年)の策定では、住民参加のワークショップ、まちなみ検討会、先進地域への視察などが行われ、まちづくりの目標や、まち並みのあり方について、たくさんの話し合いが行われました。それは、深夜遅くまでの大激論、住民、商店、行政の垣根を超えた、すごいエネルギーだったと聞いています。

「外からきた人たちに、このまち、こだわっているな〜と、感じてもらいたい。」(堀江会長談)

これまでの20年、当時の計画と想いをもとに、「まちなみ整備プロジェクト」として、石畳整備、街路灯整備、店舗ファサード整備などに取り組んできました。「品川区景観計画」(平成23年)の重点地区に品川宿周辺エリアが、指定されたことをうけて、

現在は景観アドバイザーの派遣などを行い、品川区と協働した活動に発展しています。

また、マンションの建設ラッシュや、品川駅南地域周辺の大規模な再開発計画など、新たな課題に対しても、「品川宿のまちの個性」が失われてしまうことがないよう働きかけを行っています。

◆景観アドバイザー

嶋村 泰輝

品川区から委託されているアドバイザー業務は、毎月、火曜日と木曜日の午後3時〜5時の間、建築の専門家および地域をよく知る人を中心に、ボランティア活動として行っています。今年の傾向としては、戸建て専用住宅もしくは、投資型の集合住宅の事例が多くなっており、また、店舗改装も景観の対象であることを知らず、作業中にアドバイスをもらいにくる場合も多く、重点地区での条例の認識をもっと深めてゆく必要と感じました。

これまで担当いただいた、新実さんと佐山さんは、今年度より顧問として統括的に見て頂き、品川区への

派遣については、両氏および協議会の推薦により、佐藤さん、小室さん、和田さんが、担当者として加わってもらうことになりました。新しく加わった皆さんよろしくお願ひします。他、昨年度「まちなみ環境整備事業における基礎資料作成業務」を品川区の委託事業として受け、その作業をアドバイザーの委員の皆さんで担当しました。

その際、調査の一環として、法政大学に協力いただき、現在の通りのファサード連続写真を作成しました。今後、この資料を活用して、将来の景観形成に役立てたいと思います。

◆品川駅南地区再開発

新実 正義



JR品川駅操車場の廃止に伴う品川一田町駅周辺の再開発が進み、平成24年、国際戦略特区に指定。更に、リニア新幹線品川駅の決定を受け、品川区内・品川駅南周辺地区からまちづくりの動きが起き、「品川駅南地域の未来を創る推進協議会」が発足し、品川地区の北・区境から目黒川間の街づくり構想を区に提案しました。これを受け品川区は平成25年、品川区まちづくりマスタープランの改定に地元の意向を取り入れた計画書を発表され、八つ山、北一、北二、東品川一丁目地区の町会が推進協議会共々勉強会を昨年度から始めています。

そして、平成26年暮れに当該地区は、都市計画法第6条の二号地区に指定され、再開発推進地区となりました。以来、地区特性により品川浦北側の北街区、南側の南街区部会別に分けて、それぞれ勉強会が開かれてきています。

今年度に入って、品川駅周辺の再開発による、京浜急行の八つ山踏切等の立体化の具体化が進みはじめ、北品川駅周辺の開発が急がれる状況になりました。それにより、北街区を北品川駅周辺の西街区、八つ山地区の北街区に分けることが推進協議会から提案され、今後3街区それぞれで「まちづくり協議会」を立ち上げ、具体的な構想づくりを進めたいと地元意見が求められました。

その際、八つ山地区の都営住宅

の耐震改修が始まり、北地区との一体再開発が困難になってきたことが説明され、推進協議会の会議で議論が沸騰しました。

一方、西地区では、京浜急行の立体化が必至の問題であり、急遽地元主催で研究会が開催され、開発に伴う意見・要望を纏め、推進協議会を通して、区長宛要望書を提出しました。その後、11月末の南街区勉強会の席では、八つ山地区は都営住宅との一体開発が明確になるまで協議会の立ち上げは行わないことが地区住民の意見にて決定されたと報告されました。結果、推進協議会としては、今後、西・南街区から向け作業を進める意向が表明されました。

しかし、八つ山の都営住宅とその周辺の再開発は、本来、品川駅南地区の再開発の第一の目標であった筈で、それを残してのまちづくりのコンセプトが描けるのか大いに問題があるとの意見は、今後大きな課題となると思われます。品川区がこの問題を最重要課題として早期に取り組んでいただきたいと要望します。

更に、これらに関連する南街区の都市計画道路等の基盤整備調査に品川区が着手した旨、推進協議会から報告されました。今年度末か来年度上期位に地元に見す予定とのこと。更なる困難な問題が起きないことを願って止みません。



◆行燈による路地の灯りプロジェクト

佐藤 亮太

品川宿の路地に灯りを灯し、コミュニケーションのきっかけや、安心できるまちをつくりたいとの思いから、路地に行燈をかかげるプロジェクトが始動しました。

今年は試験的に東京サラヤ(株)に行燈制作の協力を仰ぎ、しながわ宿場まつりの夜に、行燈の試験点灯を行いました。試験点灯の場所は北品川のお茶屋「若本園」さんの横の路地で実施し、50名を超える通行人の方からアンケートを頂きました。

ほとんどの方が、「是非、他の路地

でも実施して欲しい」と回答したことから、行燈プロジェクトの期待値は高いと判断いたしました。来年度は品川区とも連携を図り、より良いプロジェクトにしていく所存です。



水辺プロジェクト

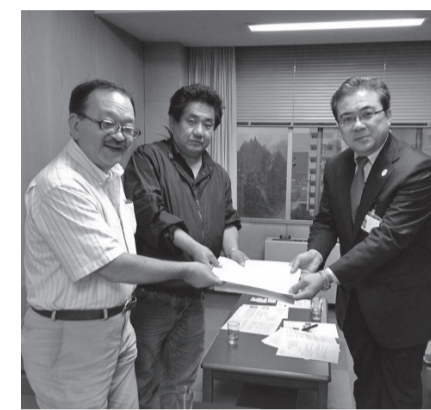
江戸時代以前より、品川湊(港町)として栄えた品川宿には、その歴史や文化が多く存在しています。「水辺の文化を伝えていきたい。」「地元子どもたちに、水辺を身近に感じ、楽しんでもらえるような活動を行い、環境教育や防災教育につなげていきたい。」そのような想いを原点に、水辺プロジェクトを実施して

ます。目黒川流域、東品川海上公園、天王洲周辺、勝島運河周辺、近隣小学校のプールなどを主な活動エリアとして、清掃活動、Eポート体験、釣り・生き物調査、あさりまき、しながわ運河まつりなどを行っています。主な協力団体には、目黒川流域交流会、勝島運河倶楽部、目黒川で泳ぎ隊、なぎさの会、NPO目黒川五反

田協議会、NPO東海道品川宿、しながわ観光協会、NPO水と緑の環境ネットワークの会、地元企業、大田観光協会、大田区カヌー協会などがあります。また、品川区や近隣小中学校からも多大なるサポートをいただいています。

平成27年10月には、堀江会長、眞

崎代表(NPO目黒川五反田協議会)を中心に、協力団体とともに品川区防災まちづくり事業部松代部長様あてに、水辺活用に関する要望書(水辺の環境整備やイベントの提案)を提出しました。



大竹 幸義

◆目黒川流域交流会

目黒川流域交流会は自分たちが住んでいる目黒川や運河、また海を見つめ「安全できれいな水辺にしたい」という目的から、子供たちと楽しみながら水辺を学ぶという活動をしています。

毎年8月に行われる目黒川泳ぎ隊の活動は水質が悪いため、活動5年目にして初めて中止となりました。10月に行われた「アサリ撒き」は、都

立大井ふ頭中央海浜公園を管理する日比谷アメニスさんと屋形船大江戸さんの協力により100kgのアサリを撒くことができました。

同月行われた目黒川生き物調査では参加者100名以上の方が釣りと勝島運河クラブによるEポート体験を楽しみました。生き物調査では真ハゼ、セイゴ、ダボハゼ、蟹など沢山の種類の生き物がいることがわか

◆しながわ運河まつり~新しいまちづくり(故郷づくり)~

今年で9回目を数える「しながわ運河まつり」は、地域で活動する団体や商店街、企業など50以上が参加され、来場者数は近隣地域住民を中心に2日間で約6万人を超す、桜の時期に合わせて行われる品川の一大イベントとなりました。土曜日夜には打ち上げ花火も行われ、数多くの模擬店や物販店、アトラクションもいっぱい、ステージ・Eポート体験・目黒川遊覧船もあり1日たっぷり楽しめます。

実行委員会を務める「なぎさの会」の多くは新たに品川宿へ引っ越してきたメンバーです。地元で活動され

ている諸先輩方との出会いをきっかけに、子どもたちの故郷を良い環境で残していくために、「しながわ運河まつり」の開催に踏み切りました。多くの人が新しい「まちづくり」に関わりを持ち、そして品川全体の活性化に繋がると信じ活動しています。



寺田倉庫 荒川 滋郎

◆天王洲アイル



2015年は運河に囲まれた天王洲アイルがアートに染まった一年でした。9月にはオランダ発のメディアアートの祭典行われたToday's Art.JPが開催。これに続き、10月から11月にかけてTENNOZ ART WEEK(天王洲アートウィーク)が開催され、多様なアートイベントが来街者を魅了しました。写真のPOW! WOW! JAPAN2015は、2011年にハワイ州オアフ島カカアコ地区で始まり、ハワイ、台湾、ロングビーチを経て日本

に上陸した壁画アートフェスティバルです。島内各所で巨大な壁画アートが踊っていました。

アートといえば、2015年7月に画材ラボ PIGMENT(ピグメント)がオープン。伝統的な東洋画材の生産技術や文化継承の役に立ちたいという想いから誕生したラボは、希少性の高い画材を取り揃え、顔料だけでも4200色という国内最大級のラインナップを提供しています。画材の販売のみならず、画材の研究で博士号を取得したエキスパートが常動しているので、画材の使い方などをアドバイスしてくれます。また、美術大教授や画材メーカーによるワークショップも開催することで、学びの空間も提供しています。ぜひ足をお運びください。

◆勝島運河倶楽部

嶋村 泰輝

勝島運河倶楽部は、平成17年12月に発足した品川区の勝島運河周辺を中心フィールドとして、「遊ぶ」「学ぶ」「育てる」「語る」をテーマに、東京湾の水辺の環境保全と周辺まちづくりに関わるボランティア活動を行う団体です。構成員は地元商店街、水辺漁業等関係者、地域住民や議員、そしてデザイナーなど水辺環境に関心のある様々な方々が参加しています。花海道プロジェクトと連携し美しい護岸の景観形成をしたり、Eポートによる水辺遊びの体験や小学校のプールを利用したカヌー教室など、水辺の自然

統文化風習に触れ合い、このまちに興味を持ってもらうためのきっかけ作りをしています。嬉しいことに最近では区外のメンバーも増えてきて、賑わってまいりました。

なぎさの会はどなたでも参加していただけます。運河まつり以外にも、地域の祭礼や町会活動、商店街のイベントなど、いろいろ活動しておりますので、少しでも興味を持っていただけたらお気軽にご連絡ください。



や暮らしの知恵を生かした環境教育に関する事業を行っています。東京都品川区に艇庫設置を要請や、手漕ぎボートやシーカヤックなどの利用団体との連携など、さらなる勝島運河の水辺賑わい創出を進めています。



なぎさの会会長 小日向亮輔

文化・スポーツ夢プロジェクト

文化・スポーツを通じて、地元の高齢者や子どもたちの健康的な暮らしづくりやスポーツライフを応援していこう!という目標を掲げ、

◆FC品川サッカースクール



中学生になるとスポーツの環境も大きく変わります。その中で、学校が担い手となる部活動には、多くの課題があります。情熱があり、専門的な

平成21年にプロジェクトがスタートしました。これまで、交流館やまち(旧東海道)を舞台に、高齢者向け健康体操やパトロールマラソンなど、

先生に恵まれた選手たちは、充実した文武両道の生活が送れますが、先生の異動などによって活動が減り、もっと活動したいが活動が少ないと感じる中学生、さまざまなスポーツを経験したいがプレイする場がないと感じる中学生などが存在します。

地域(まち協)が担い手となり、中学生や学校をサポートするという発想から、2002年にFC品川サッカースクールは始まりました。FC東京のプロコーチのトレーニングを毎週土

さまざまな活動が行われてきました。現在は、地元の中学生を対象にしたFC品川サッカースクールをFC東京、(財)六行会、中学校体育連

曜日に鈴ヶ森中学校にて受けられるという事業です。現在、品川学園や東海中、豊葉の杜学園、大崎中、荏原一中など、25名の中学生が会員となっています。サッカーの競技力を高めたいという中学生から、普段は吹奏楽部や水泳部だが、週に1度サッカーを楽しみたいという中学生まで幅広いニーズに応えています。卒業生の中には、審判の協力や地域イベントの手伝い、指導者を目指すものまで、支える人材(しながわっ子)

◆FC東京しなプロ

「なぜ、商店街にFC東京のフラッグが掲げられているだろう・・・?」それは、FC東京を熱く応援する「人」がいるからなんです!

「青」「赤」でおなじみの、青物横町商店街スパゲッティハウスオーリーブの堀江さん、焼き肉おもにの権さんなどなど、品川宿にはサッカーを愛し、FC東京を熱く応援する方が大

勢います!JリーグFC東京は、東京をホームタウンとするサッカークラブとして、サッカー教室や学校体育への出前授業(浜川小学校や城南第二小学校など)、イベントではキックターゲットや各種協賛などの活動を通じて、品川宿の子どもたちを応援してくれています。品川宿からもバス観戦ツアーや商店街でのポスター

しながわっこプロジェクト

“しながわ”を愛する子供たち“しながわっこ”を増やそう!とスタートした当プロジェクトも、今年で5年目を迎えます。3年連続で開催した城南第二小「まち歩き」を始め、こ

れまで品川学園の自治会活動、英語でメニューを作る!などジャンルを問わず、近隣の小中学校と連携し、企画を通じて活動してまいりました。幸いにしてどの企画も高い評

価を頂戴し、併せてプロジェクトへの認識も徐々に高まりつつあると、担当者自身も感じております。“しながわっこ”づくりというささか高い目標を掲げてはおりますが、地道に

◆第7回 品川宿小学校6校対抗 東海道駅伝・マラソン

なぬ、東海道駅伝?!
11月29日(日)。今年で7回目となる東海道駅伝が行われました。近隣6小学校によるこのイベントはPTAが主体となってつくる「東海道駅伝実行委員会」が主催するイベントで、

4年生から6年生、駅伝とマラソンに分かれ学校の名誉のために東海道八ツ山橋から青物横丁までを走ります。今回の参加者は約200名。年々参加する子供たちも増え、まちの恒例行事として定着しております。

◆東海中学校での講演活動

講演の内容は「僕らの仕事と品川宿」。ゲストハウス品川宿がどのような経緯で出来たのか。ゲストハウス品川宿をどんな方が利用する

のか。ホテルとゲストハウスの違いは何なのか?について話をしました。この講演を通して、生徒の皆さんにゲストハウスの面白さや英語

◆品川学園(自治委員会)

品川学園では、8・9年生による自治会活動を行っています。私達まちづくり地域環境整備プロジェクトは、学校外の地域と交流をしながら、地域の課題や新しい考えを生み出し、貢献していくことが目的です。

生徒達は、まず自分達の住んでいる町を知るために、品川宿交流館を訪ね、まちづくり協議会の堀江さんのお話を聞きました。品川の歴史を再確認した生徒達は、普段何気なく歩いているこの町の「新しい気付き」

盟品川支部のみなさまとともにっています。

—— 竹中 茂雄

も育ってきています。いつでも、どこでも、誰でもサッカー・スポーツを楽しめるまちを目指して、まずは中学生をサポートする活動を広げていきたいと考えております。日頃、FC品川の活動に多大なるサポートをいただいているFC東京様、(財)六行会様、中学校体育連盟品川支部様、各公益団体の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。



コツコツと「継続」していくことが、その目標達成への道であると信じ、今後も活動していきたいと思ひます。どうぞご支援ご協力の程、宜しくお願ひいたします。



—— ゲストハウス品川宿 瀬戸口 肇

の大切さについて気付いて頂けたと思います。



を探しました。現在、生徒達はその「気付き」をもち、実際に町の人と触れ合い、その情報を地域へ伝えようと「品川宿かわら版」の作成に取り掛かっています。発行を楽しみにしててください。

◆城南第二小学校市民科授業「まち歩き」

9月19日(土)城南第二小学校の3年生80名を対象に「まち歩き」を行いました。2013年に市民科の授業として請け負って今年で3年目。今回もまちづくり協議会のメンバーが中心となり、城南第二小学校PTA、城南第二小父親の会など約30名のスタッフが子供たちと一緒に「昔の品川宿の海

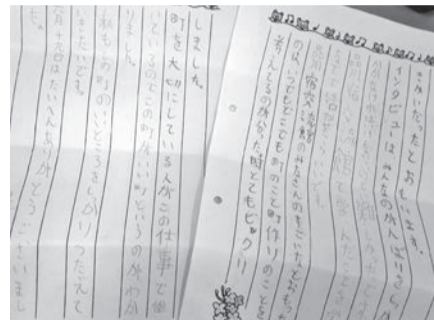
岸線や目黒川」などを歩いて周りしました。城南第二城学校を出発して、目黒川、利田神社、品川神社など約3.5kmを1時間半の行程。同行するスタッフがポイント毎に昔の古い写真をみながら「あの木がこの木で昔はこうだったんだよ。ほら、だから川はここで曲がってたんだ」などと説明をしたり、品

川神社の境内にある品川富士では、目の前に広がるまち並みを見渡しながら、まちづくり協議会の新実さんが昔の品川宿の話などをしてくださいました。恒例行事として認識されはじめたこの「まち歩き」。古い歴史を伝承していくと共に、行事そのものが伝統となっていけばいいと思います。



井上 明裕

◆品川宿交流館「職場体験」受け入れ



品川宿交流館では地元の小、中学校から依頼を受け、年間3、4校ほどの生徒さんに「職場体験」を行っています。交流館館内の掃除から始まり、ちょっと難しいけど「品川宿のまちづくり」について話を聞いてもらった後は、天気良ければ品川橋の上でお昼ご飯を食べ、時に「品川歴史館」へ

行ってみたり、時に「ゲストハウス品川宿」を訪れたり、子供たちが日々暮らす品川宿のこと、まちに携わる人のことを少しでも知ってもらうため、旧東海道沿いのまち歩きをします。最後に「職場体験」を通して感じたことを作文して、まち協Facebook「かわら版」に投稿する広報活動までが2日間の

—— 和田富士子

職場体験となります。

いつか品川宿と距離を置く日が来ても、自分のたちの故郷は「品川宿にあり!」と誇れるDNAを刷り込む役目と思い、子供たちと接しております。小、中学校の先生方、じゃんじゃん交流館へ子供たちを寄越してください!(笑)

新版まちづくり計画書

私たちが20年近くパイプとしてきた現行の「まちづくり計画書」。ここに書かれた多くの計画は高い確率で達成されています。そろそろ新しい計画書をつくらうと3年前に「新版まちづくり計画書づくり」が始まりました。

まちづくりは継続的であって欲しい、新版は間違いなく現行まちづくり計画書の流れの中にあること。20年間に行ってきたことを確実に書き残すこと。それは夢や希望が叶う過程の記録だから。もちろん実行できなかったことを引き継ぐこと。20年

後、30年後のまちをイメージして、まちに残さなければならないもの、捨て去るものは何か。そして今、みんなの小さなアイデアや大きな夢を全部書き並べる。必ず叶う、現行の「まちづくり計画書」が教えている。

連携・支援・協力イベント

「外」から人がくることで成り立つまち、それが宿場町!」「このまちで何かしたいという人たちを応援しよう!受け入れてこそ宿場町!」堀江

会長の熱い言葉と想いに吸い寄せられるように、様々な企画をもった方々が、交流館にやってきます。地域イベントや運営委員会を「知り」そし

て「参加」することで「交流」を深め、飲み会ですらに「交流」を深め(!?)、そこに「共感」が生まれ、「新たな行動」(起業や引越)を決意する人

たちを多くみてきました。品川宿のまちづくりの「志」に賛同する仲間を輪を広げていくことが、「連携・支援・協力イベント」の目標です。

◆北浜子ども冒険ひろば

北浜子ども冒険ひろばプレイワーカー 宮里 和則



「垣根の垣根のまがりかど/たきびだ たきびだ 落ち葉たき」子どもがたき火をすることのできる公園が旧東海道品川宿そばにあるという、驚かれるでしょうか。目黒川のほとりにある「北浜子ども冒険ひろば」は、毎週水曜と土曜にスタッフがたき火をして、子どもたちを待っています。ある日のこと、通りがかりのおじさんが怪訝そうな顔をして近づいてきました。「前から思っていたんだけど、こんなところでたき火なんかしているの」私は「ここは子どもたちが野外体験ができるために作られた公園で、たき火や木登り穴掘りなどできる公園なんです」とお話ししました。

さらに「火事の原因には子どもの火遊びがありますよね。でもそれはみんな隠れたところでやっているんですよ。

子どもと大人が火を真ん中に、お喋りすることがないじゃないですか。火の怖さや扱い方など伝えることが大切なんだと思うんですよ」とお話しすると、おじさんは「そうだね」と言ううなずきながら歩いていきました。

人々の生活のすぐそばにある公園だから、人々の生活道路になっている公園だから、一人また一人と子どもたちを応援してくれる人の輪が広がっていきます。あなたもぜひ遊びに来てください。

◆宿場JAPAN

渡邊 崇志



宿場からSHUKUBAに!〜オリンピックへの第一歩〜

「外国人観光案内所の設置」宿場からSHUKUBAに!〜オリンピックへの第一歩〜
外国人観光案内所の設置
リニア新駅、東京オリンピック、国家戦略特区「民泊の法制化」など、将来の変化に向け、旧東海道品川宿を訪れる外国人旅行者向けのローカル情報提供の場として、2016年2月に外国人観

光案内所を北品川1丁目ゲストハウス品川宿内にOPENします。過去6年間に国内外のお客様の感動ポイントをまとめた旅人視点のマップを主としたご案内を、品川宿交流館などと連携して実施する予定です。

「民泊相談窓口の設置」
2016年度、国家戦略特区旅館業の規制緩和にともない、地域融合型宿泊施設ゲストハウス品川宿の実績を活かした「民泊相談所」を開設します。全国あちこちで問題となっている旅行者のマナーや近隣トラブルなどを未然に防ぎ、空き家委託の受注プログラムを開始します。

「SHUKUBAの人材育成」
新しい宿場=「SHUKUBA」として、外から人を迎え入れ、日本の地方に旅人を送り出す、日本の拠点・玄関づくりが盛り上がりつつあります。旅人を迎え入れる「SHUKUBA」の担い手の育成として、地元Uターン(イターン)をサポートする活動に取り組んでいます。宿屋ノウハウとローカルコミュニケーションスキルの習得など、すでに長野県須坂市、兵庫県神戸市で品川宿のDNAを持つ人材が活躍しています。また、現在4名のUターンを希望する若手人材が、SHUKUBA品川で修行中です。修業をした卒業生が、つなぐSHUKUBAの交流を目指します!

◆寺子屋・人祭会

人祭会 平石 正弘



寺子屋塾も開設して、5年を迎えました。「挨拶の出来る子供を」を目標に続けて参りました。現在、小学生、中学生の生徒がいます。これからも地域と一緒に運営して参ります!!

また、よさこい団体として(人祭会)の活動も19年目を迎えることができました。来年3月から毎年行われる、KANAGAWAよさこいwith龍馬の副実行委員長として就任しました。品川から神奈川、そして高知へと繋いで参ります!!

6月1日より始めました(すまいる・さぼりと品川)は、順調とはまだまだ言えませんが、地域の皆さまのご協力をいただき運営しております。障害を持っての方の就労支援事業所です。我々が勉強させていただくことが多い中、意味のあることと自負し邁進しています。今後ともよろしくお願ひいたします!!